

令和6年度 研究授業
社 会 科 学 習 指 導 案

令和6年12月6日(金)・3校時

【授業者】 河野 貴紀

【単元・題材】 日本の諸地域 近畿地方

【学年・組】 2年3組

【場所】 2年3組教室

三原市立第五中学校

2年3組 社会科学習指導案

【指導者】 河野貴紀 【単元名】 日本の諸地域 近畿地方

単元観について

本単元は、平成29年告示の中学校学習指導要領の地理的分野の大項目「C 日本の様々な地域」、中項目(3)「日本の諸地域」を受け設定した。この中項目は、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を通じて理解を深めるとともに、イ(ア)日本の諸地域において、中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することをねらいとしている。

地理的分野の目標は、「地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力」を育成することである。「地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断する力、思考・判断したことを説明、議論する」ことにふさわしい単元である。

生徒観について

定期テスト等の結果から、複数の情報を結び付け、答えを導き出す問題にも苦手意識を持つ生徒が多いことがわかった。また、2学期に行った授業アンケートでは、「資料やグラフの読み取りは得意だ」という質問に対し、70%以上の生徒が「苦手である」と回答している。「文章記述が得意だ」という質問に対しては、80%以上の生徒が「苦手である」と回答した。一方で、「社会の勉強ができるようになりたい」という質問に対しては、90%以上の生徒が、「できるようになりたい」と回答した。また、「ICT機器を使った学習は、自分の学力を上げるのに効果的である」という質問に対して、80%以上の生徒が「効果がある」と回答した。

生徒は日本の諸地域に関して、九州地方・中国・四国地方・中部地方・関東地方を学習している。これまでの学習で、「自然環境」、「人口と交通」、「産業」を中核とした考察を行い、諸事象の基本的な知識を学ぶことができた。近畿地方では、生徒が苦手とする複数の情報を結び付ける活動や記述する取り組みを充実させ、ICT機器やR80を活用することで意欲的に取り組めるよう工夫したい。

指導観について

本単元の指導にあたっては、単純な知識の習得を目指すのではなく、地域の諸事象や地域的特色を理解すること、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断することに重点をおいて指導を行う。資料・グラフから近畿地方における大阪・京都を比較し、諸資料からICT機器を活用し、適切に情報を収集し、まとめる技能を身に付けさせ、他者との交流の中で自分の考察を深めることも促したい。

大阪・京都の街並みには大きな違いがある。本単元では、自然環境・人口・産業・交通・通信・文化など様々な事象を関連付け、それぞれの地域の在り方や特色、強みなどを発見するとともに、地域の課題を考えさせたい。このような課題発見・解決学習を行うことで、学習した事柄と現実世界とのつながりが見え、より学びを深めていこうとする態度を養うことができると考える。また、答えが1つではない課題と向き合うことで、他者との交流が自分の考察を深めることにつながることを実感させたい。

また、本学年の生徒は、2月に修学旅行で大阪・京都を訪問する予定である。教室で学んだことを実際に現地で確認することで、実生活とのつながりがより感じられると考える。その学びを次の世代につなぐ

意味を含めて、本単元の最後に、ICT 機器を活用して、修学旅行の行程を提案することを通して、まとめを行うとともに、学びを他者に発信する楽しさも感じてもらいたい。

単元の目標

- 大阪・京都が持つ地域の実態や特色を捉え、理解することができる。【知識・技能】
- ◎大阪・京都が抱える課題について、多面的・多角的に考察できる。【思考・判断・表現】
- 学習したことを踏まえ、大阪・京都の魅力を他者に伝えることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
発展の仕方が異なる二つの都市を比較し、それぞれの都市が持つ特徴や強みを理解することができる。	様々な事象やそこから生ずる課題を有機的に関連付け、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	大阪・京都の魅力を考え、自分たちの考える修学旅行の行程を他者に伝えることができる。

(2) 単元指導計画（全 5 時間）

次	学習内容	時間	評価規準	評価の観点			評価の方法
				知技	思判表	主学態	
1	「パフォーマンス課題の設定」 ・自分たちの修学旅行の行程を確認する。 ・大阪・京都の訪問客数について確認する。 ※ICT の活用	1	② 大阪・京都の訪問客数がなぜ多いのか、様々な面から考察することができる。 単元を貫く問いの設定 「大阪・京都を訪問する人が多いのはなぜだろう」		◎		行動観察 ワークシート R80
2	京都の歴史的文化財と街づくりがどのように関わっているのか理解する。【本時】 ※ICT の活用	1	② 歴史的な背景が、現在の京都の発展に関わっていることを理解する。		◎		行動観察 ワークシート R80
3	大阪の産業がどのように発展したのか理解する。 ※ICT の活用	1	① 阪神工業地帯を中心とした工業の発展について、理解する。	◎			行動観察 ワークシート R80

4 5	中学 1 年生に伝えたい、大阪・京都の魅力について考える。 ※ICT の活用	2	③ 学んだ大阪・京都の特徴や強みを踏まえ、自分なりに考えた魅力をまとめることができる。 修学旅行で訪問すべき場所を行程表にまとめることができる。			◎	行動観察 ワークシート R80
--------	---	---	--	--	--	---	-----------------------

本時の学習

(1) 本時の目標

「観光都市京都」の街づくりについて、街の特徴や魅力を歴史的な背景を踏まえて説明できる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 既習事項の確認をする。（前時の振り返りをする。）【5分】		
○前時の内容を確認する。	○大阪・京都の訪問客数が、日本国内において非常に多いことを確認する。 ○修学旅行の行程で、大阪・京都の訪問先にどのような場所があったか確認する。	
2 本時のめあてを確認し、課題を発見・共有する。【10分】		
○めあて・課題を書く。 課題の設定	○京都の街並みにどのような特徴があるのか、コンビニの写真を提示・確認する。	
【めあて】 「観光都市京都」の街づくりについて、街の特徴や魅力を歴史的な背景を踏まえて説明できる。		
3 本時の課題解決に向けて考える。【25分】		
○Canva「ホワイトボード」機能を使って、景観について考える。 【ICT】情報の収集 (個人思考・ペア交流)	○京都府景観条例を参考に、コンビニ以外にどのような場所で景観保護を行っているか個人で考え、意見交流を行う。個人の考えをまとめ、交流する際、思考ツールを活用する。 (個人思考：7分 ペア交流：5分)	○Canva 上のホワイトボードの内容をワークシートにまとめている。 【支援を要する生徒への手立て】 ○思考する観点を明確にするため、景観条例の5つの柱をもとに具体例を1つずつ考えさせる。また、ヒントとなる写真をそれぞれ用意しておく。
【補助発問】 京都の景観条例が制定されたのはなぜだろう？		
○補助発問に対して、景観条例の意義を考えさせる。	○生徒の解答例 ・歴史的な街並みを守るため。 ・観光地として必要な要素だから。	○ワークシートに自分の考えをまとめることができている。

整理・分析・まとめ ○京都の街づくりの特徴と魅力について考える。	○街づくりにおける京都の特徴と魅力について、訪問客数の思考ツール、写真などを結び付けて考える。	○ワークシートに自分の考えをまとめることができる。
4 本時の学習を振り返る。【10分】		
○R80 にまとめる。 【ICT】 実行・表現 R80 でまとめた内容を発表する。	【R80】 「よりよい地域の在り方とはどのようなものだろう。」 【解答例】 京都の学習を通して、その地域にある強みを生かした街づくりが重要であると思った。 また、近代的な要素だけでなく、歴史的な要素が街の魅力や強みになることがわかった。	

（３）板書計画

【めあて】 「観光都市京都」の街づくりについて、街の特徴や魅力を歴史的な背景を踏まえて説明できる。	写真	写真	京都府景観条例 5つの柱より	
	写真	写真	高さの制限	広告の制限
	写真		デザインの制限	眺望景観を守る取り組み
			歴史的な街並みを守る取り組み	